

農福連携就労定着サポートの実施について

令和6年7月16日
高知県農業振興部
環境農業推進課

●農福連携就労定着サポーターとは？

農業分野で就労した障がい者や引きこもり者等生きづらさを抱えた方や、そういった方を雇用した農家などへの助言、定期面談及び就労状況調査を通じて、就労定着を支援することを目的として設置

【サポート内容】

- (1)現在の作業内容や就労状況等への助言
- (2)障がい者等が就労を継続するうえでの悩みや課題への助言・定期面談
- (3)農家等が雇用を継続するうえでの悩みや課題への助言・定期面談 等

※サポート対象当たりの助言は5回を限度とする（定期面談を除く）

【サポートの流れ】

- ・各農業振興センター、農業改良普及所を通じてサポーターによる助言を要望する農家等を環境農業推進課に報告してもらう



- ・要望に基づき、サポーターと協議し、サポート対象を決定する



- ・初回の助言は環境農業推進課でスケジュール調整し、2回目以降のスケジュールはサポーターとサポート対象の間で協議、決定する。

【サポート実績等】

- ・R5年度：サポート対象：5件 サポート回数:19回
- ・R6年度（7月16日現在）：サポート対象：3件



農福連携就労定着
サポーターとして
大事にしていること

自己紹介

南国市生まれ南国市在住

7代続く農業を営む農家に生まれる

地元の小中高を卒業し、リハビリの専門学校に入学

卒業後は作業療法士として地元の精神科病院に17年勤務し3000人以上の治療にかかわる。

仕事をしながら結婚、出産を経て、現在中学1年生男児の母

現在は病院勤務を離れ、個人事業主として

高知県農福連携就労定着サポーター

NPOちびっと副理事長

性共育やNLP心理学をもとに性教育講演会

企業、事業所のコンサルティングや組織作りを生き方あり方を通してお伝えしている。

教育の分野では研修会や保育園で読み聞かせ、イベントの主催運営、PTA活動なども行っている



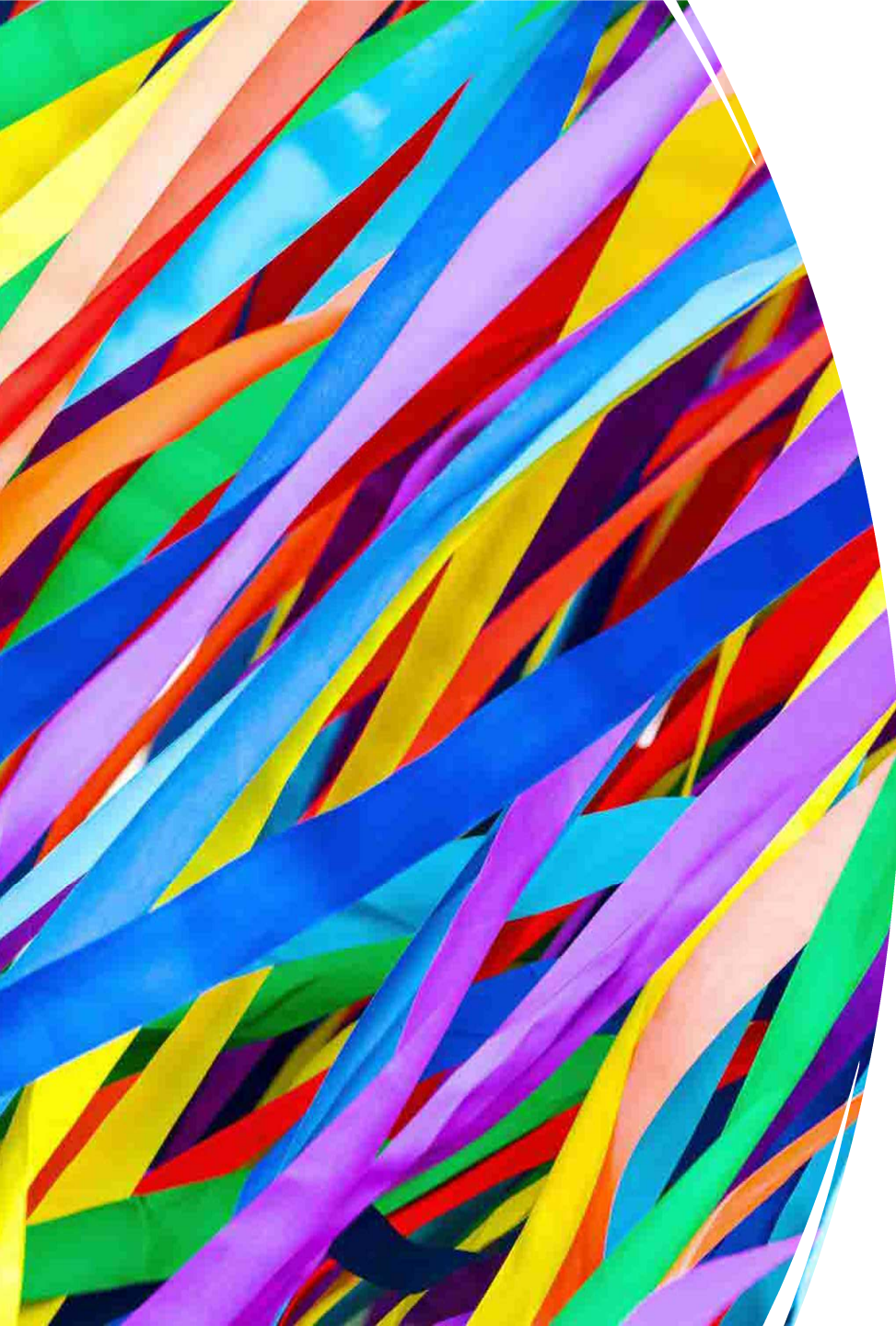


農福連携って
どんなイメージを
持っていますか？



農福連携とは

障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。農福連携に取り組むことで、障害者等の**就労**や**生きがいづくりの場**を生み出すだけでなく、**担い手不足**や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。



福祉とは

普段の暮らしの幸せ、**幸福**
生活の安定や充足

人々の**幸福**で安定した生活を
公的に達成しようとすること

働き続けることの難しさ

なぜ働き続けることが
難しくなるんでしょうか？



**働くことは人によって目的が違います
誰かの価値観で働く目的を決めていません
か？**

なんのために 働いてる？

- 収入を得て生活するため・自立するため（生きるため）
- やりたいことを実現するため
- 仕事をするこゝと自体が楽しい
- 将来の不安をなくしたい
- 社会的ステータスを得たい
- 仕事を通して成長したい
- 人と関わりたい・社会とつながりたい
- 社会に貢献したい
- 理想のライフスタイルを実現したい

農福連携就労定着サポーターが できること

- 農業者と働く人の通訳をすること
- お互いの働き方を明確にし、すり合わせをする



【実践農家の紹介】 ぼっちりファーム

【栽培品目】

夏場：

花ニラ、ネギ、パクチー、じゃがいもなど

冬場：

葉ニンニク、パクチー、ネギ

有機栽培、無農薬で各種農作物を栽培

農福連携について
どうやって知りましたか？

農福連携をはじめたきっかけ

農福連携を実践して
大変だったこと

農福連携をやってて
よかったこと

農福連携定着サポーターと
関わって良かったこと

筒井さんにとって
働くことは？

農福連携を続けようと思いますか？

農福連携を続けるのに 意識してほしいこと

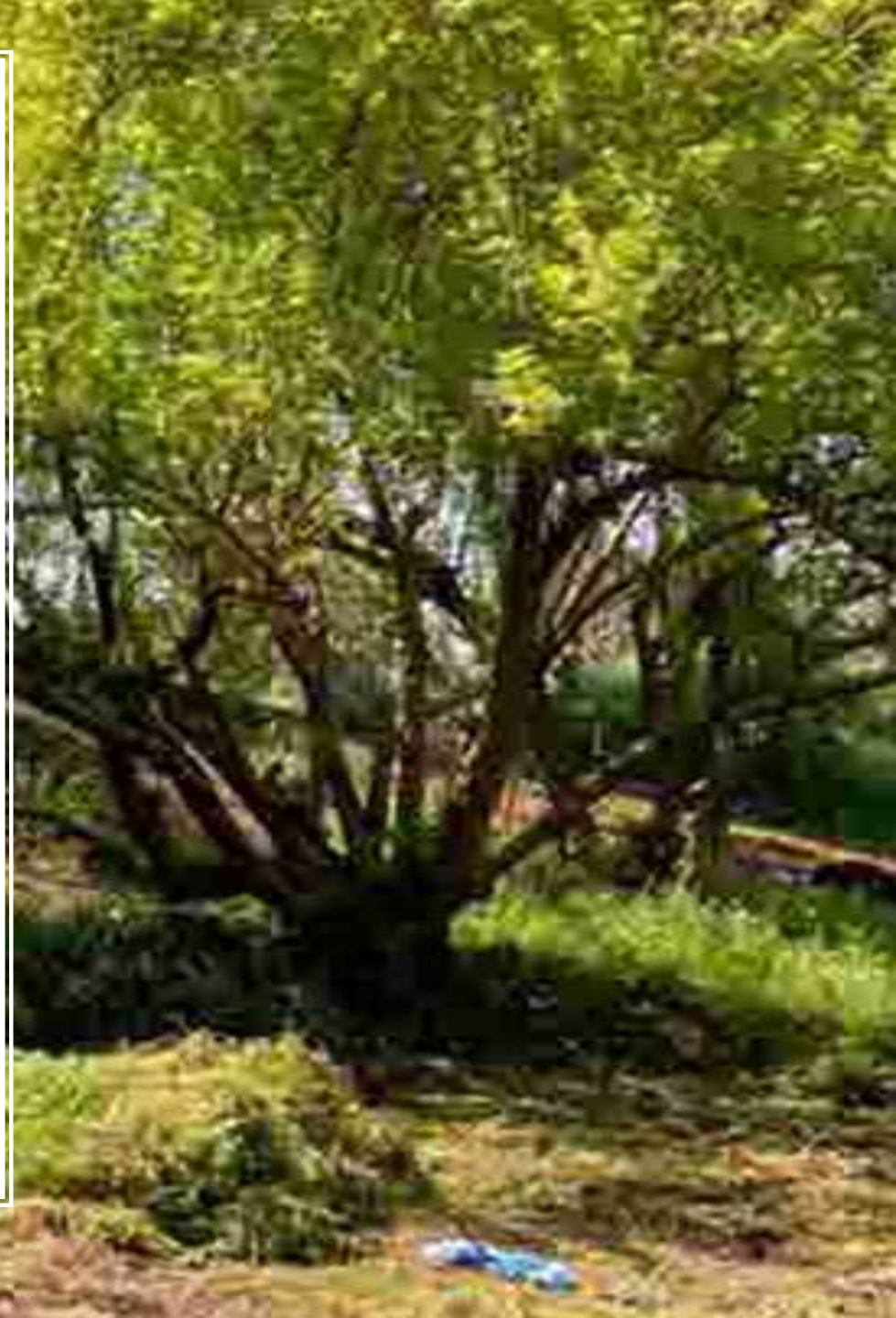
社会貢献をしたい、働き手が欲しいなど目的を明確にもつこと

時間がかかることを考慮し、長いスパンで取り組むことが必要

失敗を課題として受けとめることができる

多職種やかかわる方々に相談ができ、一人で抱え込まないこと

あきらめず、可能性を信じて前に進むことができる



農福連携は
ひととひとがつながり
もう一度
「なんのために働く」を
考えるきっかけとなる
取り組み

